

ワークショップ 17

「消化管における免疫関連副作用（irAE）の現況と対策」

司会 安藤 朗（滋賀医科大学消化器内科）

金井 隆典（慶應義塾大学医学部消化器内科）

免疫チェックポイント阻害剤はさまざまな癌種に対して有効性が認められている。免疫チェックポイント阻害剤による副作用は従来の抗癌剤とは異なり、皮膚を始め消化器、呼吸器、甲状腺、下垂体などさまざまな臓器に及ぶ。これらは過剰な自己免疫反応による副作用と考えられ irAE と呼ばれる。このワークショップでは消化管を中心とした irAE について、その診断と対策・治療について広く演題をいただき討論したい。